



宮城県支部



神奈川県支部



長野県支部



大分県支部



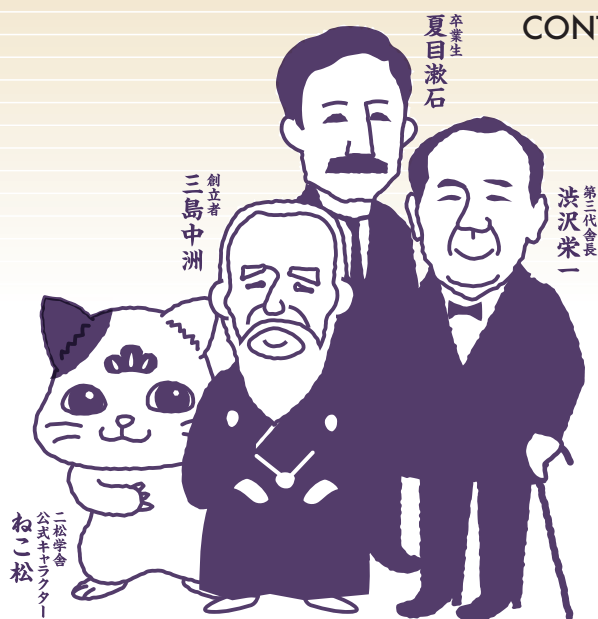
千葉県支部



東京都支部

二松学舎大学 松苓会報

CONTENTS



- P2 平野光治会長 佐藤晋学長
- P3 吾輩推し言葉⑦
- P4 連載 全国自慢地図③ 山形県・福井県・島根県・香川県・佐賀県
ステーション
- P9 母校を「学問の駅」に／卒業生の出版図書
- P10 山田方谷記念館だより／故小林公雄前幹事長を偲んで
- P11 山田方谷没後150年祭と二松学舎創立150周年と
- P12 学生会員だより 九段祭POPについて／サークル紹介
- P14 定期総会報告／松苓会役員一覧
- P16 事務局だより／訃報／編集後記

No.76 2026年 10月1日
二松学舎大学同窓会広報誌

150th
since 1877
anniversary

松苓会の名称変更について

松苓会会長
平野 光治

2025年度第2回常任幹事会において、「松苓会100周年を指して、松苓会の名称変更を考えていく必要がある。以前から度々だされた意見であること。同窓生のほと

んどが大学の卒業生になっていくこと。更に、附属高校の同窓会はそれぞれ『松友会』『松柏会』として運営されていることなどから『二松学舎大学松苓会』と改めることを検討したかどうか」との提案がありました。

同年第4回常任幹事会においても同様な提案があり、「四部会」及び「三役会」で検討してきた結果として、反対が少なかったことから同会にて

「名称変更」が承認されました。但し、幹事の皆様の意見を聞く必要があるとの会長提案により、幹事の皆様の意見を聞くことになりました。

二度のアンケートの結果、幹事の皆様の多数の賛成を得て、第31回定期総会に上程することとなりました。

定期総会では、「大学の名称に合わせる」「大学を入れた方が分かり易い」「旧字は馴染みが薄く、記入が難しい」「専門学校卒業生への配慮が必要」

「漢学塾二松学舎からのスタートであり、何で今頃との感はいなめません」等の意見を考慮したうえで、賛成68名（反対1名）で承認されました。

今後ホームページ等の記述変更を行ってまいります。各都道府県支部におかれましては記述変更についてご配慮をお願い申し上げます。

なお、現在所有の封筒につきましては使い切るまで使用いたしますので、ご承知おき下さい。

創立150年 伝統と変革

学長
佐藤 晋

本学は、2027年に創立150年を迎えます。現在、10月10日の記念式典での新カリキュラム公表に向けて教育内容の見直しを行なっていますが、生成AIの発展に伴う社会変化とそれへの政府の対応策を十分に検討した上で、

今後数十年の激動に耐えうる人材育成が可能となるものにする必要があります。

我々二松学舎大学は、1877年に三島中洲先生が漢学塾二松学舎を開いて以降、明治から令和に至る時代の大きな変化に応じて、それぞれの時期の社会に必要とされる人材育成に努めて参りました。しかし、現在生じている社会変動は、明治維新、終戦に次ぐような大きな出来事で、将来どのような人材が必要となり、またどのような職が姿を消すのかといった問題を予測

することも必要になります。その上で、政府が主導するAI人材のほかの理系人材の育成に向けた制度の見直しが求められる、一方でAI利用による大学教育の空洞化、すなわち学生が自分でものを考えなくなることへの対処が必要となっています。実は、この前者はAIを開発する側の問題、後者はAIを利用する人材の問題とも言い換えることができ、本学の場合、当面のカリキュラム改正は後者に重きを置いたものとなります。前者の取り組みは、理系または文理融合学部の新設とそれ

に伴う学部学科の改編を伴うものになるため、現在慎重に検討しております。

上述のように、現在、AIの発展によって社会に求められる人材像にも大きな変化が生じていますが、国の教育政策の方向性としては文理分断教育の克服にあります。それが望ましいのか、かつ可能なのかの議論も踏まえつつ、これからの官民を含む社会の最先端で生じている急速な変化の動向を鋭敏にとらえていく必要があります。その上で新たな時代に求められる人材の育成につなげていく所存です。



吾輩、推し言葉

讀書温古在知新

7

聖堂と斯文会

「聖橋」の名は神田川を挟んで北側にある「湯島聖堂」と、南側にある「ニコライ堂（東京復活大聖堂）」という2つの「聖堂」を結ぶことに由来する。

架橋の背景は1923年（大正12）の関東大震災からの復興事業として始まり、1927年（昭和2）に完成した。復興事業を支えたのは当時斯文会副代表を務めた洪沢栄一だった。

この湯島聖堂は昌平黌学問所跡である。建物は文化庁の史跡だが、管理は公益財団法人斯文会である。斯文とは論語子罕編に出てくる孔子の言葉に拠る。孔子が匡の土地で危難に遭遇したとき、「文王はもはや亡くなられたが、その文化（伝えられた礼学）は天意によってこの私（孔丘）に継承されている」と。なんという自負と信念。気魄の言葉であろう。

この斯文会の文化講座は、生涯学習講座として今も充実している。加藤常賢先生の「説文会」は格別のものがあり、石川忠久先生の「漢詩講座」も長い間人気があった。

学問の悦びと楽しみ

この聖堂（孔子廟）の正殿を大成殿という。あらゆる学問・道徳を集大成した孔子に拠る。論語は四字熟語の宝庫で「温故知新」は最も有名だ。

「故きを温めて新しきを知れば、以て師と為るべし」（古いことに習熟して、更に新しいことをわきまえてゆくなら、人の師となれる）であるが、勤勉さの中に閃きが生まれるのである。「知新」があるのである。本来は「温故而知新」と書く。「而」は思索の積み重ね、錬磨を意味している。これが肝である。

孔子の学問の立場は本来保守的である。「述べて作らず、

信じて古を好む」（祖述して勝手に創作せず、ただ信じて古の文化や制度を好む）―祖述とは受け継いで述べるだけで、強いてオリジナル性を追い求めない。だがその修練と工夫の中から「知新」が生まれるのである。孔子の「温故」は（聖賢（堯・舜）を祖述した）ところであり、「知新」はそれまで慈恵の義として用いていた「仁」を「人心の全徳」として説いたことである。

孟子の「温故」は（願うところは孔子を学ばん）であり、「知新」は『性善説』、『養氣』、『王道政治』を説いたところである。

論学三百絶 三島中洲明治17年作

① 読書温故在知新（読書は温故知新にあり）

② 勿效迂儒守旧陳（倣う勿れ 迂儒の旧陳を守るを）

③ 畢竟聖凡同一種（畢竟 聖凡は同一種）

④ 後人何必讓前人（後人何ぞ必ずしも前人に譲らん）

漢詩において、起承転結の最後を締めくくる「結句」に作者の魂や最も伝えたい思い

が宿る。直ぐに「後生畏るべし」の句が浮かび、論語の章句がすべて隠し味になっていることに気づく。この隠し味の出会いの喜びが私の望外の「知新」となった。

① 「故きを温めて新しきを知れば、以て師となるべし」（為政二）

② 「君子の儒となれ、小人の儒となること勿れ」（雍也六）

③ 「性、相近し。習えば相遠し」（陽貨十七）

④ 「後生畏るべし、焉んぞ来者の今に如かざるを知らんや」（子罕九）

若者は畏敬するに足る。これから自ら努めるなら、どうして今の大人たちに及ばないことがあるうか。『塾生たちよ、本気で学びなさい。私を乗り越えて雄飛せよ』とエールを送る。

明治17年、三島中洲は漢学塾二松学舎を創設して7年目。それは人類の教師と称される孔子が晩年に塾を開き、熱烈に弟子たちに期待し、励ました思いと重なる。

家永 修（44文・院修11）

連載

全国自慢地図 3

山形県支部

「山形県のお国自慢」

支部長 今野紀生（55文）



山形県が誕生して令和八年でちょうど百五十年になります。

米国の有力旅行雑誌『ナショナルジオグラフィック』の「二〇二六年に行くべき世界の旅行先25選」に、日本から唯一選出されました。混雑を避けて体験できる神秘的な聖地や温泉、四季折々の豊かな自然が世界的に高く評価されています。

山形を代表する名所といえ、まず出羽三山（羽黒山・月山・湯殿山）が挙げられます。修験道の聖地として古くから全国に知られ、「生まれ変わり」の旅として参拝客が絶えません。国宝「羽黒山五重塔」は、杉木立の中に神聖な雰囲気漂わせ、東北最古の塔として荘厳な美しさを誇

ります。

また、松尾芭蕉の「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の句を詠んだ地としても有名な「立石寺（山寺）」は、登山口から千段を超える石段を登りきった奥の院や開山堂からの眺望は息をのむ美しさで、四季折々の絶景が訪れる人々を魅了します。

他にも外国人観光客から人気のあるスポットは、大正ロマンの木造旅館が並び、雪景色とガス灯の夜景が幻想的な温泉街である「銀山温泉」があり、巨大な氷の彫刻スノーマンスター（樹氷）と名湯を満喫できるスノーリゾート「蔵王」があります。

山形の歴史を語る上で欠かせないのが、出羽の英傑・最上義光です。伊達政宗の伯父にあたる義光は、大河ドラマではダークなイメージが強いですが、山形藩57万石の城下町として、治水工事や市街地の整備を行い、現在の山形市

の基礎を築いた名将として郷土では深く敬愛されています。

もう一人の重要人物が、米沢藩第九代藩主の上杉鷹山です。「なせば成る なさねば成らぬ 何事も」の名言で知られる鷹山は、多大な財政難に陥っていた米沢藩を儉約と産業振興（米沢織やうこぎの栽培など）によって見事再興させました。領民を慈しむ愛の政治を貫いた姿勢は、アメリカのケネディ大統領をはじめ後世の指導者たちからも高く評価されています。

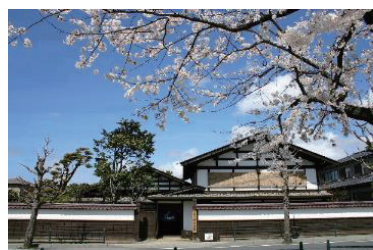
最後に私の街酒田市について紹介させてください。酒田市は山形県内を縦断し、日本海へと注ぐ「最上川」の河口に位置し、古くから舟運による経済の動脈として栄え、河村瑞賢が拓いた西廻り航路の起点港となったことで、京都の文化や上方との交流をもたらしました。

井原西鶴の「日本永代蔵」にその繁栄ぶりが描かれた廻船問屋「鐙（あぶみ）屋」「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」と謳われ

た大地主「本間家」がその繁栄ぶりを今に伝えていきます。

その本間家の財力が戊辰戦争で最後まで抵抗した荘内藩への寛大な処置につながったとは思いますが、ともあれ当時その西郷隆盛の寛大な対応に感激した荘内藩士が、教えを請い、まとめたものが「南洲翁遺訓」であり、昭和に入ってから岩波文庫より出版されるに当たり、編集・解説されたのが当時の学長であった山田準（済斎）です。南洲翁崇敬の念は現代にも伝わっており、有志が酒田市郊外に「南洲神社」を建立し、遺墨、遺品を展示しています。

歴史ある名所旧跡と、地域の発展に尽力した偉人たちの精神、そして母なる最上川が織りなす歴史のロマンと雄大な自然、温かい人情が息づく、山形県に是非お越しください。



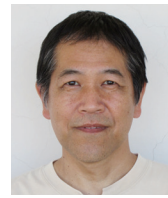
旧鐙屋

福井県支部

つながれ!

京都へ、そして宇宙へ

支部長 中道佳宏(58文)



皆さんにと
つての故郷、
また母校とは
どのような存

在でしょうか。

今から約四十年前、福井県立若狭高等学校(小浜市)を卒業した私は、書道の教員を目指して二松学舎大学文学部中国文学科へ進学した。そこですばらしい先生方や先輩と出会い、人生において本当に大切なことを学ぶ機会を得ることとなる。大学卒業後は東京で一年間のフリーターを経て、故郷の中学校で教職に就き、現在は母校である若狭高等学校で書道の教員をしている。定年退職まで残り数年、教職のしめくくりをどのようにしていくべきか、まだまだぼんやりとしか頭に描けていないのが実情である。

私の母校であり勤務校である校名を聞いてご存知の方も

いらっしやるのではないだろうか。今年のフジテレビ月曜午後九時(いわゆる月9)のドラマ「サバ缶、宇宙へ行く」のモデルとなった学校である。北村匠海さんや出口夏希さん、神木隆之介さんら豪華キャストが顔をそろえたこのドラマは、高校生と教師が十二年間にわたり「宇宙食サバ缶」の開発に挑戦した実話に基づく感動の青春ヒューマンドラマである。一般企業でさえ承認が難しいとされるJAXAの宇宙日本食に、高校生が挫折を繰り返しながら夢の実現に向けて挑戦し続ける内容である。

実際には、承認を受けたサバ缶を宇宙飛行士の野口聡一さんが宇宙でパクッと食べるというシーンは、記憶に新しいところかもしれない。宇宙日本食としてのサバ缶の開発、JAXAの承認、そして野口さんの映像、一連の流れを実際の生活の中で目のあたりしてきた私にとって、この「サバ缶、宇宙へ行く」のドラマ化は本当に大きいことで

あり、ありがたいことであった。今では私の母校である若狭高校や私の故郷である小浜市は、観光客も少し増え、全国からほんの少しだけ注目される学校、地域となっている。

もう一つ故郷小浜市のことを取り上げるとすれば、間違いなく北陸新幹線伸延に関するニュースであろう。令和六年三月に北陸新幹線は、金沢・敦賀間が開通した。その先の敦賀・小浜間、そして京都・大阪につながるのはいつになるのか。この点については半世紀以上にわたって議論され、紆余曲折を繰り返してきた。近年には政治的、環境的要因により、大どんでん返しが行われている。私の故郷の小浜市の人たちにとって、北陸新幹線が小浜を通り、そして京都・大阪につながることは、長年の夢である。

奈良時代や平安時代には小浜で獲れた海産物を鯖街道というルートを通じて平城京や平安京に届けていたという歴

史がある。現代版鯖街道とも言うべき北陸新幹線小浜・京都ルート(掛川案)が改めて正式決定し、約二十分で結ばれる。開通はまだまだ先であるが、その日が来るのを楽しみに待ちたいと思う。

皆さんにも母校と呼べる学校があり、故郷と呼べる場所があるはずだ。すぐ近くに母校や故郷がある人も、また遠く離れている人も、母校や故郷は大切な場所である。今後充実した人生を送るためにも、母校を想い、故郷に貢献できる人となれるように、日々努めていきたいと思う。

つながれ!
京都へ、そして宇宙へ。



福井県立若狭高等学校正門

島根県支部

「島根ってどこ？」

支部長 山平恭史（58文）

第五十八期卒の山平と申します。支部長を仰せつかって三年目になります。しかし、この間、取り立てて島根での活動もなく、支部の皆様にはご迷惑をおかけし、申し訳ありません。

さて、今回は私が暮らす島根県について、ご紹介したいと思います。

島根県は中国地方の日本海側に位置し、東は鳥取県、西



出雲大社



宍道湖の夕日

は山口県、南は広島県・岡山県に接しています。大学時代、島根県出身だと伝えると、「ああ、鳥取砂丘のあるところ」と言われたことを思い出します。まあ、他県のことなど、そんなものなのかもしれません。

島根といえば、まず出雲大社です。縁結びの神様として全国的に知られ、旧暦十月には全国の神々が集まることから、出雲では十月を「神在月」と呼びます。古くから神話や伝統文化が息づく、島根を代表する場所です。

県庁所在地の松江市には、国宝・松江城があります。現存する十二天守の一つで、天守からは松江市街や宍道湖を一望できます。宍道湖は夕日の美しさで知られ、ヤマトシジミなど豊かな水産資源にも恵まれています。松江は「水の都」とも呼ばれ、城下町の風情を今に残しています。

県西部には、城下町として知られる津和野や、世界遺産に登録された石見銀山があります。石見銀山では、当時の坑道である「間歩」の実踏体験や歴史的な町並みを歩きながら、往時の面影を感じることができます。

また、日本海に浮かぶ隠岐諸島はユネスコ世界ジオパークに認定されており、断崖や海岸など、雄大な自然を楽しむことができます。島根には、このような歴史と自然が共存する場所が数多くあります。

さらに、安来市には足立美術館があります。日本画や陶芸の名品を収蔵する美術館ですが、特に美しい日本庭園で知られ、国内外から多くの人が訪れています。

が訪れています。

島根県は人口約六十四万人と、全国でも人口の少ない県の一つです。過疎化や少子高齢化など、さまざまな課題を抱えています。しかし、その一方で、豊かな自然、長い歴史、独自の文化、そして人々の温かさがあります。都会のような華やかさはありませんが、ゆっくりと時間をかけて訪れることで、その魅力を感じていただける県だと思います。

「神々の宿る国」とも呼ばれる島根。この文章をきっかけに、少しでも島根を身近に感じていただき、いつか実際に訪れていただければ幸いです。

今回、執筆の機会をいただいたのも、在学時代にお世話になった二松学舎大学松苓会幹事長の高柳先輩とのご縁があったからです。現在、島根で高校教員として生活できているのも、二松学舎大学で学んだ四年間があったからこそと感謝しております。

母校のさらなる発展を心より祈念し、結びとさせていただきます。

香川県支部

貞廣観山先生揮毫

「香川県議会」碑

田山 泰三（53文）



香川県高松市番町四丁目、香川県庁舎東館の南に

ある香川県議会議事堂正面に二松学舎大学書道科教授をつとめた貞廣観山先生揮毫の「香川県議会」碑があります。



香川県議会碑 貞廣観山先生揮毫

講座 中国書道史

『講座中国書道史』の扉頁

昭和61（1986）年に設立されました。

貞廣観山先生は香川県高瀬町（現在は三豊市）の御出身。岡山県で高校教員をつとめられたあと昭和43

（1968）年より二松学舎大学に勤務。書道を担当され昭和48（1973）年から昭和61（1986）年3月まで教授。その後名誉教授。私も貞廣先生から書道実技と中国書道史を教わりました。とてもわかりやすく、学ぶことの多い講義であり実技指導でした。教授職を退かれたあと貞廣先生は大学で講義された中国書道史の講

義内容を本にまとめられ、昭和63（1988）年『講座中国書道史』として刊行されました。貞廣先生にはほかに『心の糧』『履霜の戒め』等の著書があります。

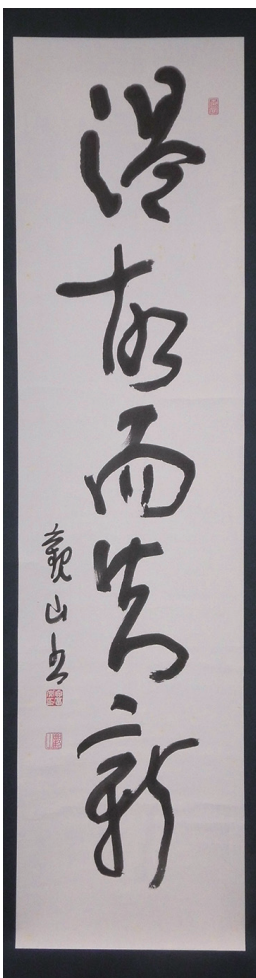
貞廣先生は郷里香川を敬慕する教育者でもありました。高瀬町に観山福祉基金を、善通寺市に観山育英基金を創設。高瀬町には筆塚を建立。香川県内には高瀬町「綾子姫」碑をはじめとする貞廣先生揮毫の石碑があります。いまでも貞廣先生を慕う方が三豊市を中心に県内に何人もいらつしゃいます。貞廣先生は篆刻も得意でした。香川出身で内閣総理大臣をつとめた大平正芳首相の印も貞廣先生がつくられていました。

書体の中で貞廣先生は楷書を得意とされていました。古

典作品の臨書もさることながらすぐれた創作作品を書き上げていました。この「香川県議会」碑は楷書字体に少しふくらみを持たせ、厳しさの中に温かさややさしさが感じられる仕上がりになっています。香川県の民意を象徴する施設である香川県議会の建物の前に貞廣先生揮毫の碑が建っていることを誇らしく思います。

この碑は高松市番町の県庁通りに面して建てられています。とても人通りの多いところですが、力強い字体で私もこの碑をみて何度も元気づけられました。貞廣先生の碑が高松市の中心部に建てられていることを紹介し、香川県の「御国自慢」とさせていただきま

（釈文）温故而知新



佐賀県支部

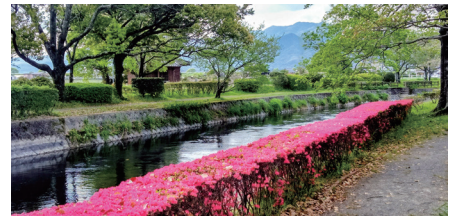
嘉瀬川の恵み

支部長 白濱富士夫（54文）

佐賀県は、福岡県と長崎県に挟まれた小県で、人口は77万5千人ほどです。佐賀には、背振山地を水源とし、有明海に注ぐ「嘉瀬川」という川があります。一級河川に指定され、全長は57キロメートルで、佐賀県では最長の川です。嘉瀬川にはいくつもの川が合流し、また、嘉瀬川からの分流が数多くあり、その分流から更に小河川が分流しています。この嘉瀬川水系の川々がもたらす水は、佐賀市とその周辺地域の人々の生活の基盤になっており、佐賀にとって嘉瀬川は、とても重要な河川です。

嘉瀬川の中流域から下流域に差し掛かる箇所に、石井樋（いしいび）と呼ばれる場所（佐賀市大和町）があります。嘉瀬川と多布施川の分流点です。石井樋は、江戸時代初期の400年前に、佐賀藩成富兵庫茂安によって造られた日本最古の取水施設で、2つの堰が設けられ、嘉瀬川の水を

取水し、多布施川に分流しています。人工的に造られた多布施川は、全長9.5キロメートル。江戸時代初期に佐賀城を囲むお堀へ注ぐ目的で造られました。お堀の周りには、水路が張り巡らされ、多布施川の水は、城下町の飲料水などの生活用水や農地を開くための灌漑用水を供給し、佐賀城の防衛機能の役割も果たしたということです。石井樋は公園として整備され、そのすぐ南側には多布施川河畔公園があり、多布施川の両岸には、桜並木が美しい遊歩道が設けられています。石井樋・多布施川の一帯は、水と緑が調和された自然が豊かな場所です。風情があり、まさに市民の憩いの場として、潤いをもたらしてくれています。私も好きな場所で、よく散歩を行い、吹く風を肌身に心地よく感じながら、自然を満喫



多布施川遊歩道

しております。

嘉瀬川下流バルーンの河川敷では、毎年熱気球の競技大会が行われています。「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」と呼ばれる大会ですが、十一月上旬の5日間実施されます。全国ニュースでも取り上げられ、バルーン大会の期間中は、河川に架かった鉄橋に臨時の「JRバルーン駅」が敷設されます。子供連れの家族など、毎年80万人前後が訪れます。国内外から70〜80機のバルーンの参加があり、期間中には競技に加えて、様々なイベントが開催されます。飲食関係だけでなく、多様な種類の店が出店され、会場は大変賑やかとなります。朝7時から競技が開始され、青天の中、色とりどりのバルーンが一



バルーン大会



バルーン大会

斉に飛び立つその光景は、まさに圧巻です。川面に映るバルーンは大変美しく、来場者を魅了しています。夜間係留のバルーンも魅力的です。

インターナショナルバルーンフェスタの他に有田陶器市、唐津くんち、吉野ヶ里歴史公園などには、県外から多くの方が来られますが、私の方のお勧めのスポットは、四季折々の自然の風物が楽しめる石井樋公園・多布施川河畔公園・多布施川の一帯です。癒され、安らぎを与えてくれる場所です。佐賀に来られる時は、ぜひお立ち寄り下さい。尚、石井樋公園内には、大正・昭和期に活躍をした歌人高尾朝花の歌碑（「時折に庭の山茶花に 来てあそぶ 目白来たら ずけふを時雨るる」歌集『彦岳』所収）がございます。お越しの際は、必見して頂ければ幸いです。



石井樋公園

母校を「学問の駅」に

ステーション

助川忠弘（65政）

私は二松学舎大学国際政治経済学部を卒業しました。大学で政治や経済を学び、社会に出てから約三十年。振り返れば、二松学舎で学んだことは、卒業とともに終わったのではなく、その後の人生のさまざまな場面で私を支えてくれたように思います。

現在は柏市議会議員として二十年近く地域の課題に向き合っています。また、二松学舎に縁のある方々の中には、地方政治の道を歩む人、自治体の長として地域を担う人、国や自治体の行政機関で地域のために働く人など、それぞれの立場で社会を支えている方が数多くいます。

政治という共通のテーマを通じて、そうした皆さんと経験や課題を語り合うことも、卒業後の新たな学びになるのではないかと考えることがあります。

私自身も52歳となりました。『論語』にいう「五十にして天

命を知る」とまではいきませんが、これまでの歩みを振り返りながら、新たな道へと挑戦していきたい。そのような思いで日々活動しています。

だからこそ、二松学舎大学には、学生が学ぶ場であると同時に、卒業生が再び集い、それぞれの経験や知識を持ち寄り、語り合える場所であってほしいと思います。政治、行政、経済、教育、文化など、異なる分野で活動する人々を結び、現役学生とも交流し、そこから新しい知恵や情報を社会へ発信して地域を豊かにしていく。母校が、そんな結節点となれば素晴らしいことです。

駅は、人が集い、出会い、また次の目的地へ向かう場所でもあります。学生にとつての出发点であり、私たち卒業生が立ち寄り、学び直し、新たな一歩を踏み出す場所。二松学舎大学が、これからも多くの人を結ぶ「学問の駅」であり続けることを願っています。

卒業生の出版図書

深澤賢治さん（37文）

『陽明学のすすめⅩ』

西郷隆盛 人間学決定版』

ISBN 978-4-89619-343-5

(株)明徳出版

3,190

円(税込)

2026年

8月22日



序文に学校法人二松学舎・水戸英則理事長が「混沌の時代だからこそ、自らを律し、

天を敬い、人を愛した西郷隆盛の『敬天愛人』の精神に立ち返る必要がある。それこそが、本書を通じて深澤氏が世に問う『これからの日本のあり方』です」と寄せられているように、西郷隆盛を見直して、これからの日本のあり方をまとめられています。

また、余話として渋沢栄一翁の『論語講義』筆述者を務めた本学卒業生・尾立維孝氏のエピソード「十七歳の若者が見た西南戦争」が掲載されているのも興味深いところです。

(広報部会)

土屋 誠さん（50文）

『米の味のアナウンサー』

小川宏伝』

2,000円(税込)

2026年

11月29日刊行予定

「ジェスチャー」

(NHK)・「小川宏ショー」

(フジテレビ)―これらのテレビ草創期の番組を生放送で長く続けた一人のアナウンサーが本の主役である。今年

は、その小川宏の生誕百年・没後十年の節目の歳である。

テレビは一部で「オールドメディア」と揶揄する声が大きくなった。たしかに、技術の進化で媒体はインターネットが中核になったようにも思える。そうかも知れない。いや、そう見えるだけなのかも知れない。

昨年は日本の放送が始まって、百年の節目の歳。AI時代にアナウンサーは要らないのか。小川宏の歩みから、教育での「表現」も含め考察して、「声」を追求する。(著者)



山田方谷記念館だより

山田方谷150回忌記念
栗山英樹監督講演

山田敦（48文）

今年は山田方谷の150回忌の年。それを記念して様々な事業が展開されている。

令和8年6月28日に岡山プラザホテルで開催された記念講演会では、追悼式の後、「WBC2023」で日本を世界一に導いた栗山英樹監督に「WBC世界一と山田方谷との出会い」という演題でご講演をいただいた。

監督は、山田方谷が佐藤一斎から贈られて大切にした「盡己」（自らの持てる力を出し尽くす）という言葉をチーム作りの基礎とした」と語った。

市をあげて応援した高梁市に感謝の言葉を伝えた直筆の毛筆のお礼状が現在、山田方谷記念館で展示されている。

（高梁市山田方谷記念館館長

方谷5代孫）

故小林公雄幹事長

を偲んで

五十嵐清（44文）

猛暑が続く7月のある日、小林公雄前幹事長を偲んでと題した原稿依頼が松苓会事務局からあった。松苓会報の原稿依頼である。

さて、何を書いたらいいのか、小林さんとの思い出は枚挙にいとまがないほどある。私が二松に奉職した時から上司として指導をいただき、これまで公私ともにお世話になった方で、履歴を重ねてみると職員としてまた役員として辿ったポストは殆ど同じであり、偉大な母校の先輩でもある。

私が最初に小林さんと一緒に仕事をしたのは入試業務であった。当時は入学願書のセット作業から受付業務、採点業務や集計作業も職員が人海戦術で行っていて全て手作

業、これまでの経験とある意味「勘」に頼るものであった。そんな中、広報戦略の立案や適正な入学者を確保するためには、継続した数値の蓄積が必要であるとの認識から、年度入試の統計資料を作成するため、小林さんと二人で会議室にこもり作業ができたことは、大変貴重な経験であった。また、松苓会業務のお手伝いもお声がけをいただいた。定期総会の準備や事務的な作業をお手伝いさせていただき、そのお陰で全国の支部長さんとも面識を得ることができた。

小林さんは、当時から大学と松苓会のパイプ役を担っていて、松苓会の組織強化に取り組み、歴代会長の相談相手となり、諸規則の制定や地方支部の活性化に積極的に取り組んでいた姿は、皆さんの知るところである。

さらに、大学38回卒業生の

「秀葉会短信」の編集発行に関わり、原稿が完成すると必ずこんなのができたと笑顔で見せてくれたことも昨日のように思い出す。

一方、国際政経学部の上教と一緒にご自身の出身地である秋田県出身の学生を集め、県人会を組織して地方から進学してきた学生の相談にも熱心に関わっていたことから小林さんのお人柄を伺うことができる。

そんな偉大な小林さんがご逝去されたのは、今年の3月5日、享年78歳、あまりにも早すぎる旅立ちである。小林さんは皆さん知ってのとおり相当な頑固者である。しかし、やさしい。

『精励恪勤』余計なことは一切言わず黙々と仕事をする在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

（学校法人二松学舎常任理事）

合掌

山田方谷没後150年祭
と二松学舎創立150周年と
馬淵裕之（60文）

本年2026年は山田方谷没後150年にあたり、岡山県内の方谷ゆかりの地において、様々なイベントが開催されています。二松学舎大学では、そのうちの何件かの講演会等に協力しています。

山田方谷のみならず、岡山県ゆかりの人物に関する様々な講演会が予定されていますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

倉敷市・二松学舎大学連携講座

二松学舎大学は、三島中洲の出身地である倉敷市と

2026年度 二松学舎大学開連イベントのお知らせ

二松学舎大学は、岡山県内において以下のよう各種イベントに参加しています。
ご興味のあるイベントがございましたら、ぜひご参加ください。

講演会

日付	会場	講演	講師	主催等
9/26(土) 14:00～15:30	東京市 お茶の水 センター	山形方面看護150周年事業 山形看護専門学校 「元山形看護専門学校三田孝三理事長の学歴から見た 養育の物語」	町 島寿寿子 氏	県立山形看護専門学校 山形看護専門学校 g-shinaga@shinaga.ac.jp
10/11(日) 13:00～15:00	岡山県立 美術館 講堂	岡山二松学舎大学講演会 「岡山県立 元「倉敷市」 ちやうそくての結核〜 自然発作的なわけ〜」 「岡山県立元「倉敷市」 一衣衣子先生の岡山県立美術館を中心とした 大岡山県立美術館の歴史の博物館の歴史の博物館	山口 真寿寿子 氏 藤田 淳枝 氏	倉敷市観光課 086-224-3411 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp
10/31(土) 13:30～16:00	茨城県市 交流センター (筑波美術館)	「福島の復興と野村浩一先生」 「野村浩一先生と三島清久先生らと地方作家と美術家と」	山本 太郎 氏 町 島寿寿子 氏	野村浩一先生 086-472-2001 二松学舎大学 入道崎 真寿寿子 氏
11/28(土) 14:00～15:30	高松学院 文化会館	山形方面看護150周年記念講演「高松市の戦後復興と 山形看護専門学校」	町 島寿寿子 氏	高松市立美術館 0864-21-0180 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp
11/29(日) 14:00～16:30	宇治市立 市民会館	「国立公園の創造と大庭秀子先生との美術家（野村浩一先生）」	町 島寿寿子 氏	宇治市立美術館 0864-72-1700 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp
3/7(土) 10:30～14:30	倉敷市立 美術館 講堂	「野村浩一と山形方面看護150周年」	町 島寿寿子 氏	倉敷市教育 0864-224-1111 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp
3/13(土) 14:00～15:30	東京都市立 美術館 講堂	「川口龍太郎先生と三島清久先生」	町 島寿寿子 氏	東京府美術館 03-6426-1111 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp

※それぞれの講演会の詳細につきましては、問い合わせ先にご確認ください。

展示会

日付	会場	展示	主催・協力団体
10/10(土)～ 10/18(日)	東京市市 美術館 講堂	山形方面看護150周年記念特別展 「山形看護専門学校と山形市」	高松市立美術館 0864-21-0180 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp
期別	倉敷市立 美術館 講堂	倉敷市の演習者たち	倉敷市立美術館 0864-224-1111 二松学舎大学 oshinaga@shinaga.ac.jp

学芸イベント

日付	会場	講演	主催・協力団体
11/7(月) 8(日)	倉敷市立 美術館 講堂	秋田県立美術館 「倉敷市立美術館と秋田県立美術館」	二松学舎大学 二松学舎大学山形方面看護専門学校

特に進先のあるイベントにつきましては、二松学舎大学 地域・学芸推進課までお問い合わせください。

☎ 03-3261-1285 s-renkei@shinaga-u.ac.jp

2016年に連携協定を締結し、共催により連携講座を開講しています。

本年度は2026年10月11日（日）に、倉敷市立美術館

講堂において
瀧田浩教授によ
る「新聞小説『友
情』の誕生」武
者小路実篤の薄
田泣堇宛書簡を
中心に、「山
口直孝教授によ
る『横溝正史』八
つ墓村」をめぐ
る七つの秘密――

す。

 倉敷市・二松学舎大学連携講座		
<p>I部</p> <p>「新聞小説『友情』の誕生</p> <p>—武者小路実篤の薄田泣菫室書簡を中心に—</p> <p>信芸学大卒 文学部教授 瀧田 浩</p> <p>「友情」は武者小路実篤の代表作品です。新聞連載小説だったことが注目されています。しかし、数冊後の出版人、読者まで、当時人気日本雑誌文芸春秋でこの連載が中断を遂げた。本誌の中で新聞連載と、さまざまな関係性を探ります。「友情」と一見点から一線に考えてみたいと思います。</p>		
<p>II部</p> <p>「横溝正史『八つ墓村』をめぐる七つの秘密 ―自筆資料からわかること―</p> <p>信芸学大卒 文学部教授 山口 直孝</p> <p>日本犯罪界において、今や第四の大御所化せられた横溝正史「八つ墓村」。金田、明智、江戸川との鼎足争奪戦。横溝の創作活動と、その中で活躍した作家たちについて、自筆資料をもとに探っていきます。作中の謎々も紹介します。一応、学芸大会事務局の「八つ墓村」展覧会と関連講座も併せて開催します。</p>		
<p>2026年</p> <p>10月11日(日)13:00～15:30</p> <p>開場・受付開始 12:30</p>	<p>参加費無料</p> <p>定員 200名</p>	
<p>会場</p> <p>倉敷市立美術館 講堂</p> <p>倉敷市中央 2-6-1</p> <p>※ご来館の際は、公共交通安全にご留意ください。</p>	<p>主催 I 二松学舎大学 共同 II 倉敷市</p> <p>申込方法</p> <p>申込フォームからお申し込みください。</p> <p>次のQRコードからお申込みいただけます。</p>	
 <p>二松学舎大学</p> <p>お問合わせ先は、メールでお問い合わせいたします。</p> <p>二松学舎大学 総務・学生課連絡 yuen@nishikyohighschool.ac.jp</p>	<p>申込締切</p> <p>9月30日(水)</p> 	

薄田泣堇は、岡山県浅口郡大江連島村（現在の倉敷市連島町）出身の明治の詩人・随筆家で、本学卒業生でもあります。

展示会ご希望の方は、所定の手続き（HP参照）をお願いします。

また、ホームカミングデー（10月31日～11月1日）において、無料招待券（数量限定）をお配りいたします。

横溝正史旧蔵資料
につきましては、附
属図書館において、
自筆原稿・草稿、ノ
映画シナリオなどを収
め、一部はオンライン

二松学舎大学は2027年、創立150周年を迎えます。この記念すべき年に、学祖生誕の地を訪れてみてはいかがでしょう。

ます。
山田方谷150年祭記念特別
展・記念講演会

または、地域・産学連携室までお問合せください。
(s-renkei@nishogakusha-u.ac.jp)

山田方谷生誕の地である高梁市では、山田方谷没後150年を記念して展示会と記念講演会を開催し、二松学舎大学も共催しています。

ac.jp)

(大学改革推進部
地域・産学連携室室長)

特別展（2026年10月10日（土）～2027年1月18日（月）、火曜日休館）は、有料となります（一般500円、65歳以上・高校生300円）が、本学関係者は無料で鑑賞することができます。

松山藩と
日方谷

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

松山藩と日方谷の物語

学生会員だより

国際政治経済学部3年

会長 峯嶋樹音

学生会執行委員会会長の峯嶋と申します。日頃から多岐にわたり本学の学校行事を温かく支えてくださり、心より感謝申し上げます。4月の新入生歓迎会式典を開催してからあつという間に季節は巡り、気が付けば秋の足音が聞こえる季節となりました。さて、今年の11月には、本学最大規模の行事である「創縁祭」を開催する運びとなりました。今年度の創縁祭が掲げるテーマは「煌縁」です。このテーマには、創縁祭の象徴である「縁」という言葉を取り入れ、本学に関わるすべての皆様との大切な繋がりが、キラキラと眩しく「煌めく」ような素晴らしい瞬間になってほしいという深い願いを込めております。参加される各部活動やサークル等の団体の皆様をはじめ、私たち学生会執行委員会も「創縁祭実行委員会」へと心を一つにし、ご

来場いただくすべての方々から楽しんでいただけるような魅力溢れる行事を全力で作りに上げてまいります。創縁祭は、学生同士の親睦はもちろんのこと、日頃お世話になっている教職員の皆様や地域の皆様との繋がりをより一層深め、新たな「縁」をたくさん生み出すための非常に大切な機会です。春の新入生歓迎会で得た貴重な経験や学びを最大限に生かしながら、これまで以上に多くの方々に笑顔と感動を届けられる最高の創縁祭を目指して準備を進めてまいります。今後とも学生会執行委員会および創縁祭実行委員会の活動に対し、変わらぬご理解とあたたかいご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

九段祭POPについて

国際政治経済学部3年

吉川由夏

九段祭POP2026責任者を務めさせていただきます。また、国際政治経済学科3年の吉川と申します。今年度も文

化団体が日頃の活動成果を発表する学内向けの文化祭として、6月15日(日)に学生会執行委員会主催のもと、九段キャンパスにて開催いたしました。「蒼光」というテーマ、「何気ない日々の中で胸をよぎる想い。揺らぎながらも消えないその光を辿り、不確かな今を越えて未来へ。蒼く静かに力強く。この瞬間にしか描けない、自分だけの光をここに刻もう。」というコンセプトを掲げ、皆様が存分に楽しめるよう役員一同準備を進めてまいりました。

今年度も多くの団体にご参加いただき、当日に最高の発表が行えるよう準備する姿が見受けられました。新体制となった学生会執行委員会も一丸となり、満足のいく発表ができるよう協力いたしました。また、教室や中洲記念講堂での発表は、団体と来場者の垣根を越えて双方で楽しむことができたと感じております。当委員会では恒例のビンゴ大会のほか、「発見!二松スタンプリング」9割が間

違える?!見破れAI画像クイズ」「二松昇降ウルトラクイズ」の3企画を実施いたしました。皆様の思い出のひとつになれていれば幸いです。

今年度は昨年以上の皆様にご来場いただきました。ご参加・ご来場くださった皆様に心より御礼申し上げます。来年度以降もよりご満足いただける九段祭POPを目指し精進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

サークル紹介

硬式テニスサークル

[SMASH]

国際政治経済学部3年

島田孝太郎

私たち硬式テニスサークル「SMASH」は、2024年秋に設立された、二松学舎大学の学生を中心とした硬式テニスサークルです。現在は41名のメンバーが所属し、初心者から経験者まで、幅広い学生が一緒に活動しています。

普段の活動では、基礎練習やラリー、試合形式の練習などを行い、テニスの技術向上

だけでなく、メンバー同士の交流も大切にしています。経験者が初心者にアドバイスするなど、学年やテニス経験に関係なく楽しめる環境づくりを心がけています。練習後は、みんなでファミリールレストランに行くことも多く食事をしながら交流を深めています。活動の中でも特に力を入れているのが、大会への参加や合宿です。日頃の練習の成果を発揮する場として大会に参加しメンバー同士で応援し合いながら競技に取り組んでいます。また、合宿では普段とは違う環境でテニスに打ち込むだけ



でなく、練習後の交流を通してメンバー同士の親睦を深めています。テニスの上達だけでなく、仲間と過ごす時間も大切な思い出となっています。

さらに、テニス以外の活動として、2か月に一度を目安に交流会も開催しています。食事会やレクリエーションなどを通して、普段の練習では話す機会の少ないメンバー同士が交流できる機会を作っています。

サークルの運営は学生自身が行っており、練習場所の確保や大会・合宿、交流会の企画などをメンバーで協力して進めています。これからも「テニスを楽しむこと」と「仲間とのつながり」を大切にし、充実した大学生活を送れるサークルを目指して活動していきます。

サブカルサークル②次研

文学部3年 小坂叶恵
サブカルサークル②次研の活動内容は厳密に決まっているわけではありません。現在はコスプレ、写真撮影、サー

クル員の交流を主に校内イベント日で活動を行っております。

このような内容を羅列していくと、怪しげなサークルではないかと思われる方も少なくないでしょう。現在でこそコスプレという文化は各種メディアで取り上げられるようになりましたが、センシティブなイメージが付いているのも事実です。

しかし我々のサークルではあくまでも「交流」をメインとしており、販売や露出を行っておりません。初回のサークル員交流会や校内イベント以外では女性サークル員限定のコスプレ交流会、撮影も不定期で行っております。女性コスプレイヤーが多く、流行りのジャンルを好む方々も多いです。同じ趣味の友人を作



りたい、コスプレに興味があるけどイベントに行く勇気が出ない、好きなジャンルの併せをしてみたい等、様々な需要に応えることが出来るサークルです。

もちろんコスプレをしない方も大歓迎です。イベント日には各自グッズを持ち寄り展示、交流を行うことができ、学校というロケーションを生かした「ぬい活」も推奨しております。本学にはアニメーション研究や2.5次元研究等を行う授業も多いため、サブカルチャーを研究、実践する場としても良い共同体です。XのDMから随時募集を行っております。兼部をしている学生も多いため気負う必要はございません。是非、サブカルチャーを大いに盛り上げる素晴らしい学生生活を送ってみませんか。我々はいつでもお待ちしております。



2026年度「第31回松苓会定期総会」開催報告

今年度の定期総会が2026年6月6日(土)13時から二松学舎大学九段一号館十一階会議室で開催された。

当日は水戸英則理事長、佐藤晋学長、五十嵐清常任理事、廣田克己顧問が臨席。

総会は、小西明德常任幹事により開会が宣言され、昨年度の物故者に黙禱を捧げた。

続いて構成員78名中出席者42名、委任状17名、議決権行使書提出者12名の合計71名の参加があり、総会の成立が確認された。

平野会長の挨拶の後、水戸理事長から「N2030PLAN」の成果と、AI社会・2040年問題を見据えた『2040PLAN』への展望」に基づく講話、佐藤学長、廣田顧問から挨拶があった。

議長に大山由美子副会長が、副議長に星野優子副会長が、書記に青山幸雄常任幹事・茨城県支部長と馬淵裕之常任幹事が、議事録署名人に

中居功一常任幹事と高橋映子常任幹事が指名された。

議案審議

次第に従い議案の審議が行われ、左記の議案について原案どおり承認された。

総会議案

- 2025年度事業報告並びに事業監査報告
- 2025年度収支決算報告並びに経理監査報告
- 「二松学舎松苓会」の名称変更について
- 2026年度事業方針並びに事業計画案
- 2026年度予算案
- 二松学舎松苓会役員候補者選考委員設置に伴う委員の選出について
- 2026年度二松学舎松苓会役員等について

諸報告

- 支部・同期会助成費申請について
- その他
 - ・役員の皆様より
 - ・新役員紹介

2026年度 松 苓 会 役 員 一 覧 (■は、新役員)

役 職	氏 名	卒業期
顧 問	末吉 榮三	12 専
顧 問	神津賢一郎	27 文
顧 問	廣田 克己	38 文
相談役	水戸 英則	理事長
相談役	佐藤 晋	学 長

常任幹事

役 職	氏 名	卒業期
会 長	平野 光治	40 文
副会長	金井 康	41 文
副会長	星野 優子	42 文
副会長	大山由美子	47 文
幹事長	高柳 幸雄	49 文
常任幹事	渡辺 和則	特
常任幹事	小林 孝彰	38 文
常任幹事	中居 功一	39 文
常任幹事	持田 賢一	40 文
常任幹事	坂井 福作	42 文
常任幹事	清水 登	42 文
常任幹事	家永 修	44 文
常任幹事	青山 幸雄	49 文
常任幹事	小町 邦明	49 文
常任幹事	片山 聖英	50 文
常任幹事	矢澤 喜成	50 文
常任幹事	高橋 映子	53 文
常任幹事	三好 行雄	53 文
常任幹事	荒井 俊郎	54 文
常任幹事	志村 孝	59 文
常任幹事	西園 隆士	59 文
常任幹事	小西 明德	60 文
常任幹事	馬淵 裕之	60 文
常任幹事	中原 敬二	62 文
常任幹事	原 由来恵	63 文
常任幹事	助川 忠弘	65 政
常任幹事	渡辺 大雄	65 文

監 事	氏 名	卒業期
監 事	田邊 義博	47 文
監 事	佐藤 修	41 文

支部長

支部名	氏 名	卒業期
北海道	佐賀 敦司	49 文
青森	柴垣 博孝	40 文
岩手	宮本 義孝	32 文
宮城	二上 久芳	44 文
秋田	鈴木 隆博	54 文
山形	今野 紀生	55 文
福島	中渇 宏昭	55 文
茨城	青山 幸雄	49 文
栃木	寺内 進	49 文
群馬	高柳 薫	47 文
埼玉	青木 一弥	47 文
千葉	河野千津子	49 文
東京	矢澤 喜成	50 文
神奈川	平野 光治	40 文
山梨	坂本 壽彦	47 文
長野	清水 登	42 文
新潟	坂井 福作	42 文
富山	小島 貴雄	47 文
石川	菅野 成也	50 文
福井	中道 佳宏	58 文
岐阜	竹内 秀人	55 文
静岡	未 定	
愛知	新海 直	59 文
三重	小川 直紀	44 文
滋賀	角井 良暢	49 文
京都	廣田 康男	54 文
大阪	齋藤 衛	49 文
兵庫	武内 昭徳	47 文

奈良	辻 一	39 文
和歌山	明治 利隆	47 文
鳥取	小谷 章公	38 文
島根	山平 恭史	58 文
岡山	山田 敦	48 文
広島	村山慶一郎	47 文
山口	俵田 賢嗣	40 文
徳島	佐々木義登	59 文
香川	中條 敏雄	50 文
愛媛	村上 純也	59 文
高知	足達 昇	55 文
福岡	正生 英彦	48 文
佐賀	白濱富士夫	54 文
長崎	黒瀬孝志郎	38 文
熊本	塩永 英文	52 文
大分	甲斐啓一郎	52 文
宮崎	崎田 浩二	52 文
鹿児島	岡元 正昭	31 文
沖縄	金城 健一	38 文

同期会

期	氏 名	卒業期
91 期	大貫龍之介	91 文
92 期	中野 椋介	92 政
93 期	中里真輝人	93 文
94 期	藤川 紗綾	94 文

本部幹事

役 職	氏 名	卒業期
幹 事	大淵 俊明	50 文
幹 事	町 泉寿郎	60 文
幹 事	山崎 真之	66 政
幹 事	篠原 貴	69 文
幹 事	岡本 由美	44 文
幹 事	相良 恭子	69 文

2026 年度 松苓会予算				
2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日				
○収入の部				
(単位：円)				
前年度繰越金	会費	金		8,425,563
				3,860,000
新卒者終身会費	卒者終身会費			12,000,000
既卒者終身会費	既卒者終身会費			300,000
小寄附収入・受取利息	小寄附収入・受取利息			12,300,000
				500,000
				500,000
				0
合計				25,585,563
○支出の部				
事業費				
松苓会会報等発行				
印刷・制作費 (76・77 号分)	印刷・制作費 (76・77 号分)			1,300,000
発送費 (76・77 号分)	発送費 (76・77 号分)			3,000,000
「扶苓」発行費	「扶苓」発行費			0
小計				4,300,000
卒業生交流事業				
ホームカミングデー	ホームカミングデー			600,000
小計				600,000
卒業生支援事業				
支部運営助成費	支部運営助成費			1,000,000
支部報発行助成費	支部報発行助成費			700,000
支部強化助成費	支部強化助成費			100,000
支同期会助成費	支同期会助成費			300,000
小計				2,100,000
母校支援事業				
教育振興資金助成費	教育振興資金助成費			1,000,000
教小	教小			100,000
小計				1,100,000
在学生支援事業				
学学生支	学学生支			500,000
学園祭助成費	学園祭助成費			100,000
課外活支助成費	課外活支助成費			200,000
教入学支助成費	教入学支助成費			1,200,000
入卒業生支助成費	入卒業生支助成費			300,000
卒学小	卒学小			900,000
生業費	生業費			150,000
小計				3,350,000
合計				11,450,000
運営費				
会費	会費			300,000
出張費	出張費			1,200,000
出張費	出張費			300,000
出張費	出張費			550,000
出張費	出張費			1,000,000
小計				3,050,000
小通備印消慶謝手貨雑運				
信・配送	信・配送			150,000
印刷品	印刷品			100,000
消耗品	消耗品			350,000
弔礼数借	弔礼数借			700,000
				120,000
				50,000
				80,000
				130,000
				60,000
合計				5,090,000
特別会計				
周松松特	周松松特			1,000,000
年会費	年会費			500,000
会費積立	会費積立			2,000,000
特別会計	特別会計			3,500,000
予備費	予備費			5,545,563
合計				25,585,563

2026 年度 松苓会特別会計予算				
1 周年事業積立金				
(収入の部)				
2025 年度からの繰越				7,755,967
2026 年度繰入				1,000,000
合計				8,755,967
2 松苓会奨学基金				
(収入の部)				
2025 年度からの繰越				10,456,606
2026 年度繰入				500,000
利息				17,013
合計				10,973,619
(支出の部)				
2026 年度給付奨学金				1,028,000
手数料				880
合計				1,028,880
3 松苓会費積立金				
(収入の部)				
2025 年度からの繰越				81,308,013
2026 年度繰入				2,000,000
合計				83,308,013

2025 年度 松苓会収支決算書				
2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日				
○収入の部				
(単位：円)				
前年度繰越金	会費	金		7,443,375
				4,200,000
新卒者終身会費	卒者終身会費			11,355,000
既卒者終身会費	既卒者終身会費			480,000
小寄附収入・受取利息	小寄附収入・受取利息			11,835,000
				844,000
				670,967
合計				24,993,342
○支出の部				
事業費				
松苓会会報等発行				
印刷・制作費 (72・73 号分)	印刷・制作費 (72・73 号分)			1,157,200
発送費 (72・73 号分)	発送費 (72・73 号分)			2,758,437
「扶苓」発行費	「扶苓」発行費			0
小計				3,915,637
卒業生交流事業				
ホームカミングデー	ホームカミングデー			581,440
小計				581,440
卒業生支援事業				
支部運営助成費	支部運営助成費			496,022
支部報発行助成費	支部報発行助成費			618,357
支部強化助成費	支部強化助成費			49,559
支同期会助成費	支同期会助成費			30,760
小計				1,194,698
母校支援事業				
教育振興資金助成費	教育振興資金助成費			1,000,000
教小	教小			100,000
小計				1,100,000
在学生支援事業				
学学生支	学学生支			0
学園祭助成費	学園祭助成費			100,000
課外活支助成費	課外活支助成費			79,000
教入学支助成費	教入学支助成費			801,790
入卒業生支助成費	入卒業生支助成費			219,813
卒学小	卒学小			770,000
生業費	生業費			16,000
小計				1,986,603
合計				8,778,378
運営費				
会費	会費			226,512
出張費	出張費			815,478
出張費	出張費			206,808
出張費	出張費			439,104
出張費	出張費			928,000
出張費	出張費			112,328
出張費	出張費			126,500
出張費	出張費			301,070
出張費	出張費			680,168
出張費	出張費			121,500
出張費	出張費			0
出張費	出張費			46,698
出張費	出張費			230,340
出張費	出張費			54,895
合計				4,289,401
特別会計				
周松松特	周松松特			1,000,000
年会費	年会費			500,000
会費積立	会費積立			2,000,000
特別会計	特別会計			3,500,000
予備費	予備費			0
合計				16,567,779
○収支残高 (次年度繰越)				8,425,563

2025 年度 松苓会特別会計決算書				
1 周年事業積立金				
(収入の部)				
2024 年度からの繰越				6,755,967
2025 年度繰入				1,000,000
合計				7,755,967
2 松苓会奨学基金				
(収入の部)				
2024 年度からの繰越				9,940,473
2025 年度繰入				500,000
利息				17,013
合計				10,457,486
(支出の部)				
2025 年度給付奨学金				0
手数料				880
合計				880
(収支) 10,457,486 - 880 = 10,456,606 (次年度に繰越)				
3 松苓会費積立金 (終身会員積立金の名称変更)				
(収入の部)				
2024 年度からの繰越				79,308,013
2025 年度繰入				2,000,000
合計				81,308,013

2025 年度会計収支決算は以上のとおりです。
2026 年 5 月 7 日
二松学舎松苓会会長 平野 光治 ㊞
二松学舎松苓会事務局 金子 真澄 ㊞

経理監査報告書
2025 年度 (2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日) の経理状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りがないことを認めたのでここに報告致します。
2026 年 6 月 6 日
二松学舎松苓会監事 田邊 義博 ㊞
二松学舎松苓会監事 佐藤 修 ㊞

事務局だより

2025年度常任幹事会

(第6回) 3月14日(土)

主な議題

1 部会より

ア 総務部会

松苓会諸規程の改正に関する件

2026年度常任幹事会

(第1回) 5月16日(土)

主な議題

1 第31回定期総会議案について

ア、2025年度事業報告について

イ、二松学舎松苓会の名称変更について

ウ、二松学舎松苓会諸規程の改正に関する件について

エ、2026・2027年度事業計画(案)について

オ、二松学舎松苓会役員候補者選考委員会設置に伴う委員の選出について

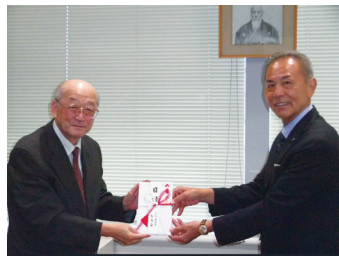
(第2回) 7月12日(土) 主な議題

1 二松学舎大学松苓会諸規程の改正に関する件について

祝 附属柏高等学校男子ハンドボール部

附属柏高等学校の男子ハンドボール部は第49回全国高等学校選抜大会でベスト16、そして2024・2025年連続して千葉県高校1年生大会で優勝、2025年千葉県新人体育大会で優勝と好成績を収めている。

男子ハンドボール部の活躍に対して、7月21日(火)に、大学九段1号館松苓会室において、平野光治松苓会長より七五三和男校長先生へ支援金が贈呈された。



晴雨兼用傘を提供

急に雨が降った際、九段キャンパスは1号館から6号館までそれぞれ少し離れているため、傘のない学生は濡れながら校舎間を移動します。

そこで父母会と協議し、校舎間移動用の傘を提供するこ

とにしました。昨今の猛暑や紫外線除けを配慮して晴雨兼用傘を計百本用意し、利用いただいています。

学生たちの感想は概ね良好。これから学生の意見に耳を傾けて支援していきます。



訃報

菅根順之 (24文)

松苓会元副会長

二松学舎名誉教授

令和8年6月3日逝去

享年92

小林公雄 (38文)

松苓会元幹事長

二松学舎名誉舎友

令和8年3月5日逝去

享年78

白藤禮幸

二松学舎客員教授

令和8年6月8日逝去

享年87

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

表紙

6月6日の「第31回定期総会」開催後、今年度の支部総会が各地で開催されています。

総会に加え講演会、懇親会等、地域ごとに趣向を凝らした企画で、出会いと交流、学びを深めています。

二松学舎
大学
松苓会報
No.76

創発編住 刊行集所 昭和62年12月1日
令和8年10月1日
二松学舎大学松苓会
〒102-8336
東京都千代田区三番町6-16
03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)
印刷 振替口座 刷 (株)サンセイ



編集後記

地震、豪雨、台風と天地の表情が落ち着かず不安と隣り合わせの毎日が続きます。ですが、そうしたなかでも夜空の月や星、木々草花の移ろいを楽しめる喜びは持ち続けたいものです。

松苓会の名称変更に伴い本報タイトル文字も新たにになりました(筆は家永修常任幹事・44文院修11)。1年後の2027年10月10日に控える本学創立150周年に向け弾みがつきます。

卒業生が集う多世代組織の松苓会も95周年。卒業生の皆さまや現役二松生との繋がり、同窓生の絆を深めるため、本報とHPをご活用ください。ご意見ご感想、情報提供等お待ちしております。

二松学舎大学(松苓会)
ホームページ
松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp